

市長とあって1年が過ぎた。選挙では市政の刷新を掲げたが、前市政と色はどうか変わったか。  
橋本「市民のくらしに寄り添った行政を」を大切に、まずは市民に寄り添い、喜ん

### 橋本弘山羽村市長インタビュー

## 西口土地区画整理事業 年度内に方向性

2021年4月の羽村市長選で初当選した橋本弘山羽村市長に市政の取り組み状況を聞いた。市長選の争点となった羽村駅西口土地区画整理事業は、学識経験者らによる検証会議の意見を参考に年度内に具体的な方向性を打ち出すとした。新たに企画部に公共施設マネジメント課を設置し、公共施設などの整理統合など方向性や手法を検討していくという。また、ICTの活用促進では、行政のデジタル化を実効的で、効率的に進めるため専門知識を持つ外部人材の活用を6月から開始するとしていた。このほか、職員が個々の能力を存分に発揮できるよう風通しの良い職場づくりに努めていることを明かした。4月16日、羽村市役所で。



「市民のくらしに寄り添った行政」の実現を目指す橋本市長

職員行動指針や接遇マニユアルの改訂に取り組み一方、職員が個々の能力を存分に発揮できるよう風通しの良い職場づくりに努めている。手始めに係長職の全職員とのヒアリングを実施した。声はしっかりと生かしていききたい。  
財政の健全化をどう進めているか。新しい視点からのアプローチはあるか。

本部で事務事業の改善、見直しを審議し、2022年度当初予算に反映した。22年度は新たに企画部に公共施設マネジメント課を設置し、公共施設などの整理統合、集約化、複合化に向け、ニーズや老朽化の状況などを把握し、方向性や手法を検討していくこととなる。歳入確保の面ではクラウドファンディングやネーミングライツなどの実施により自主財源確保に取り組んでいる。21年度には日野自動車羽村工場にネーミングライツ・パートナーに応募してもらい羽村市動物公園の愛称が「ヒノトントンZOO」になった。22年度はクラウドファンディングで、獣舎の改修を行っていききたい。また、市長給与も引き続き20%削減し、先頭に立つて財政健全化に取り組んでいく決意だ。  
羽村駅西口土地区画整理事業の検証はどう進めているか。そもそも何を見過ごさなかったのか。選挙で市長を支

## 風通しの良い職場づくり推進

持した市民団体の声をどうかしていくのか。  
橋本 土地区画整理事業の最適な進め方について検討する学識経験者らによる検証会議を設置し、会議での意見を参考に年度内に具体的な方向性を打ち出し、推進していく。  
橋本 公共結節点となる羽村駅西口駅前広場の整備や近隣市町とを結ぶ広域的な幹線道路などの整備を進めるとともに、都市防災機能の強化や安全・安心で快適な歩行空間の確保、良好な都市景観の創出に向け、道路のバリアフリー化や無電化の推進に取り組んでいく。  
ICTの活用促進は時代の流れになっている。橋本 ICTの活用促進では、行政のデジ

## 人に優しい社会福祉の道

社会福祉法人さくらぎ会を設立した宮林瑛氏は1963年に日本大学法学部を卒業。武蔵野市役所に奉職している。入庁から6年目、福祉事務所に異動。ケースワーカーを務めた。それが父の原点だと長男で同会理事長の宮林大輔氏は話す。  
「仕事に私立保育園の入退園管理があり、現場で保育士や園児と触れ合ううちに『こんな場所が日

### さくらぎ会 宮林大輔氏



国学院大学を卒業して5年ほど百貨店で接客を学んだ。介護の現場も経験し、98年にさくらぎ会に入職。その際、父から諭されたのが私の利用者やスタッフに接する心がまえだ」

選。町長選にも出馬したものの、48歳で政治とは訣別した」とはいえまだ50前、瑛氏が次に選んだのが高齢者福祉。加速する少子高齢化の波の中で、秋川流域にも特別養護老人ホーム整備のニーズが高まっていた。瑛氏は94年、秋川市(現あきる野市)雨間の蛙沢ガーデン跡地に、こもれびの郷を開園した。



先代の仕事と教え

「行政とも折衝していくなかで、日の出町の福祉全般にも取り組みたいとの思いが生じたのかもしれない。父は79年に町議会議員に立候補し当

どこにいても直らなかった方へ(3密対策を徹底)  
秋川駅北口 41年の実績  
**太田ハリ灸治療院**  
042(550)5591 完全予約診療(当日予約も可) 土日も診療  
初診料 3,000円 治療費 3,500円 (学生2,500円)  
この広告で来院した方は初診料無料  
坐骨神経痛、ヘルニア(腰、頸椎)、脊椎管狭さく、五十肩、ひざ関節症、肩こり、エルボ(テニス・ゴルフ)、湿疹、スポーツ障害など  
坐骨神経痛=お尻から足にかけて痛み、シビレで歩くことが困難な方  
あきる野市秋川1-1-13共和ビル3階 秋川駅徒歩1分  
「私が元気に大会に出場できるのは痛めた腰・肩の治療を受け、体のケアをしているからです」



# 公共施設の整理統合へマネジメント課設置

## ICT活用促進で外部人材登用

タル化を実効的かつ効率的に進めるため専門

知識を持つ外部人材の活用を6月から開始する。外部人材の専門性を市職員も吸収し、全庁横断的に行政サービスなどのキャッシュレス化や事務事業の自動化に向けた検討を行うなどスピード感を持ち取り組んでいく決意だ。

水上公園はいつ再開するのか。

事業費、財源確保などについて調整を進め、2025年度をめどに新たな活用方法を決定する考えだ。現在、ベンチやテーブル、サイクルラックなどを設けた親水エリア、通称「じやぶじやぶ池」を週末ごとに開放し、子どもたちが水遊びを楽しんでいる。夏休み期間中は連日開放し、利用していたり予定である。

羽村市動物公園で日野自動車とネーミングライツ・パートナー協定を締結したとの話が あったが、シャトレーゼホールディングスとの包括連携協定の締結もしている。具体的な取り組みと期待は。

橋本 包括連携協定は今年2月16日に締結した。宿泊施設やスポーツ施設などの相互利用をはじめ産業振興、地域防災など双方の資源を有効に活用した様々な連携を進めることで、地域の活性化と市民サービスの向上を図りたいと思っている。現在、7月1日の市民利用に向けて具体的な取組みについて調整を図っているところだ。

2022年度から10年間のまちづくりの将来像など定めた「羽村市基本構想」への意気込みを聞きたい。

橋本 基本構想は、人口減少や少子高齢化、ICTの進展、自然災害や新たな感染症の脅威など、市を取り巻く環境が変化し、まちづくりの転換期を迎える中であって、市民、事業者と行政が将来のまちの姿を共有し、羽村市が将来にわたって持続可能なまちとして発展していくための指針であり、まちの将来像を「まちに広がる笑顔と活気 もっと！くらしやすいまち はむら」と定めた。これを

実現していくため、「一人ひとりを大切にする」と「人と人とのつながりを大切にする」と「くらしやすさを大切にする」と「一歩踏み出す勇気と力、英知を大切にする」とをまちづくりで大切にしている。実現に向けて、

## もっと！目指す

# 「まちに広がる笑顔と活気くらしやすいまち はむら」

脱炭素社会の実現に向けた取り組みも待ったなしだ。

橋本 環境施策では、2022年度を始期とする「地球温暖化対策地域推進計画」を前年度に改訂した。計画では新たな基本目標として「ゼロエミッションの地球にやさしいまちをつくる」を掲げ、二酸化炭素排出量の削減目標として、2031年度までに2013年度比で46%の削減を目指すこととした。実現に向け市民事業者、市が連携し、環境に配慮した多様な取り組みを推進していきたい。

### 街プレ創刊10周年記念

## 「SDGsアワード西多摩」

7月16日午後1時30分  
福生市会館小ホール

### 優れた取り組み顕彰 首長ハネルディスカッションも

西多摩の情報紙街プレが創刊10周年記念で「SDGsアワード西多摩2022」を企画、同実行委員会が、西多摩地域を拠点にSDGs(持続可能な開発目標)達成に役立つ取り組みを行っている企業、団体、個人を公募し、特に優れた取り組みを顕彰する。応募は自薦他薦を問わない。6月30日まで受け付ける。

SDGsは、気候変動や社会の格差の問題などが深刻さを増す中、2015年の国連総会で、30年までに達成する世界共通の17の目標を定めたもの。西

多摩地域でも近年、自然保護をはじめ教育支援、地域に残る歴史、文化、伝統的生活を再認識し、豊かな暮らしにつなげるなど多くの取り組みが始動している。

学部長島剛教授、朝日新聞立川支局杉山圭子記者、同実行委員会などがゴールドなど3賞を授け、7月16日に福生市民会館小ホールで開催する「SDGsアワード西多摩2022」で受賞者を表彰する。当日は午後1時30分に開会。受賞式に先立

ち、慶應大学大学院政策・メディア研究科の佐久間信哉特任教授が「SDGsを道しるべ」に西多摩地域の再構築をテーマに基調講演。次いで西多摩の3市3町1村の市町村長が参加し、「SDGs達成へ向けた地方自治体の役割と取り組み」についてパネルディスカッションを行う。多摩大学 松本祐一教授がファシリテーターを務める。

西多摩の3JAや8市町村の観光協会、青

梅法人会、8市町村の商工会議所、商工会などが協力。東京都と8市町村が後援する。応募と当日の参加は街プレホームページから受け付けている。

街プレでは、SDGsの達成に向け取り組みを進める企業、団体、市民を紹介し、より多くの人に知ってもらうことで、事業への理解と賛同を広め、目標を達成してもらうことを願う企画としたとし、積極的な応募と当日の参加を願っている。

「まちに広がる笑顔と活気くらしやすいまち はむら」

「SDGsアワード西多摩2022」を企画、同実行委員会が、西多摩地域を拠点にSDGs(持続可能な開発目標)達成に役立つ取り組みを行っている企業、団体、個人を公募し、特に優れた取り組みを顕彰する。応募は自薦他薦を問わない。6月30日まで受け付ける。

SDGsは、気候変動や社会の格差の問題などが深刻さを増す中、2015年の国連総会で、30年までに達成する世界共通の17の目標を定めたもの。西

学部長島剛教授、朝日新聞立川支局杉山圭子記者、同実行委員会などがゴールドなど3賞を授け、7月16日に福生市民会館小ホールで開催する「SDGsアワード西多摩2022」で受賞者を表彰する。当日は午後1時30分に開会。受賞式に先立

ち、慶應大学大学院政策・メディア研究科の佐久間信哉特任教授が「SDGsを道しるべ」に西多摩地域の再構築をテーマに基調講演。次いで西多摩の3市3町1村の市町村長が参加し、「SDGs達成へ向けた地方自治体の役割と取り組み」についてパネルディスカッションを行う。多摩大学 松本祐一教授がファシリテーターを務める。

西多摩の3JAや8市町村の観光協会、青

梅法人会、8市町村の商工会議所、商工会などが協力。東京都と8市町村が後援する。応募と当日の参加は街プレホームページから受け付けている。

街プレでは、SDGsの達成に向け取り組みを進める企業、団体、市民を紹介し、より多くの人に知ってもらうことで、事業への理解と賛同を広め、目標を達成してもらうことを願う企画としたとし、積極的な応募と当日の参加を願っている。

**“東京のふるさと” 檜原村で生活しませんか**



“東京のふるさと”と呼ばれる檜原村に、介護老人福祉施設「檜原苑」があります。自然環境は都内随一、その四季折々の環境の中で心安らく施設として、常に改善に取り組みながら、地域や家族の方にオープンな施設を目指しています。美味しい食事、生活を楽しめる行事プランを取り入れながら、入居者と共に考え、よりよい施設づくりを実践しています。施設と呼ばれるより、檜原苑という家庭を築いてゆきたいと考えています。

**檜原苑** 〒190-0214 檜原村 5650-8  
TEL042-598-0333 FAX042-598-0334  
特別養護老人ホーム

オープンゲートベーカリー  
**OPENGATE BAKERY**



焼きたてのパンと素敵な空間

常時約80種類のパンをご用意。ウッドデッキのイートインスペースも併設。ご購入頂いたパンをその場でお召し上がりいただくこともできます。

〒205-0002 羽村市栄町 2-22-17 ☎042-555-8266  
営業時間 9:00 ~ 19:00 定休日 火曜定休